



# 安保改訂 50 年、日韓併合 100 年 今こそ輝く平和憲法の意義

平和憲法が制定されて63年、戦後の日本はこの憲法を支持する国民に支えられ、平和の中での成長を求めて歩んできました。そのことは、近隣諸国から評価され、アジアでの戦火の拡大の歯止めのひとつとなってきました。

今年、日米安保改定50年の年です。日米安保条約の下で、米軍機の騒音や事故、米兵による犯罪、環

境破壊などが、基地周辺の住民のくらしを脅かしています。日本にある米軍基地・施設の7割以上が集中している沖縄をはじめ全国で、在日米軍基地の整理・縮小・撤去や、米兵犯罪に無力で、それを助長している日米地位協定の改定を求める声が高まっています。

同時に今年、韓国併合100年の年。かつての日本はアジア近隣諸国と協力しあう道を拒否し、植民地支配と侵略によって、アジアの人々に多大な犠牲を強いました。未だにこの事実を認める勇氣を持たぬ政治家もいますが、私たちはそうしたひ弱な日本人にとどまっいて良いでしょうか。事実をありのままに直視することではじめて近隣諸国の人々から尊敬され、相互理解が生まれ、友好協力と共存共栄のアジアを築くことができるのではないのでしょうか。

第二次大戦の惨禍は極めて甚大でした。特に核兵器の恐ろしさは筆舌に尽くしがたいもので、今日でも被爆による苦しみは続いています。核廃絶の願いは、ようやく世界各地で真剣に受け止められるようになりました。核兵器は決して使ってはならないことを、多くの人が理解し始めています。すでに核を持つている国、核兵器の開発を進めている国の指導者は、大胆な核軍縮と核兵器の完全廃棄を求める世界の市民の声に真剣に耳を傾けるべきです。とりわけ日本は、核廃絶運動の先頭に立つ責務があります。

改憲のために憲法審査会を動かして国民投票に持ち込もうとする国会内の動きが続いています。平和憲法を変えさせないという人々の願いを結集し、日本国憲法を活かし、憲法9条を輝かせる社会をめざして、声をあげていきましょう。



日米安保＝軍事同盟強化に反対する数十万人の市民（1960年、国会議事堂前）

## 「九条の会・流山」にご参加を

当会は、9条を改憲させないための、草の根の、個人参加の会です。

会費なし、カンパによる

運営で、会員には毎月ニュースをお送りし、学習会や

集会などを行っています。



## 九条の会・流山

■連絡先  
TEL/FAX

阿部治正 (04-7140-7633) 石林紀四郎 (04-7154-7511)  
三原真子 (04-7152-6559) 齊藤正義 (04-7143-0374)